

越前町議会・令和6年3月定例会一般質問【米沢康彦議員】

(令和6年3月6日 午後2時10分 開始)

○9番(米沢康彦君) 今日、私、朝、目覚めましてから大変えびす顔でございます。新聞を見て、越前がにが最高の水揚げ高を更新したと。これはひとえに私たちが行っている資源管理、先人たちが行ってきた資源管理、それが実を結び、また、町が行っている二十数年前からの耕うん事業も相重なってこういう資源の回復を見たのではないかなというふうに思っております。

これも資源管理が、資源には山もあり谷もありますけれども、この大きな上の山のこれが少しでも続くように、今の若い漁業者の方にはしっかり今後の運営を営んでほしいと思っている次第でございます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

1番目の質問として、ふるさと納税の3年間の実績と今後の対策についてお伺いします。

青柳町長が就任されてから3年間で、ふるさと納税額が大幅に増えたと思いますが、3年間の寄附額の実績についてお伺いします。

○議長(佐々木一郎君) 総務理事。

○総務理事(菅原辰彦君) それでは、米沢議員のご質問にお答えいたします。

本町にふるさと納税を活用して寄附をしていただいた金額でございますが、令和3年度4億9,433万2,843円、令和4年度8億7,933万9,144円、令和5年度は令和6年2月20日現在10億1,996万9,300円の寄附をいただいております。

対前年度比で見ますと、令和3年度が約3.1倍、令和4年度が約1.7倍、令和5年度は1.2倍ほどを見込んでいるところです。

○議長(佐々木一郎君) 米沢康彦君。

○9番(米沢康彦君) ありがとうございます。

大変な額のふるさと納税額をいただいております。これは職員の方はもちろんのこと、業者の努力があったからであると考えますが、行政としてはどのようにお考えかお伺いいたします。

○議長(佐々木一郎君) 総務理事。

○総務理事(菅原辰彦君) 寄附額は令和3年度と令和4年度の2か年で大幅に増加しており、主な要因としてはコロナ禍における巣ごもり需要の増加が挙げられますが、議員ご指摘のとおり、職員による越前がに朝市などのイベントでの呼びかけ、また、事業者向けの説明会開催などによる返礼品事業者の登録促進、登録事業者による返礼品の開発、返礼品を取り扱うポータルサイトの追加などもその要因と考えられます。また、SNSなどによる情報発信で、越前町のファンが増えたことも一因として推察できます。

○議長(佐々木一郎君) 米沢康彦君。

○9番(米沢康彦君) ありがとうございます。

今後も越前町ファンが増えるよう職員、また、業者の努力を続けていってほしいと思います。

それでは最後に、今後のふるさと納税の展望と町長の熱い思いをお伺いします。

○議長(佐々木一郎君) 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、お答えいたします。

令和5年にNHKが行った全国市町アンケートのうち、ふるさと納税に関する集計結果では、自らの努力で自主的な財源を増やし、住民のための政策を実現する地方の自治体がある一方、都市部から地方への税金の流出や地方の間でも返礼品をめぐる不公平感、税金の奪い合いへの危惧が広がっていることが見えてきたと分析されていました。

本町といたしましては、北陸新幹線福井開業により、本県への観光客の増加が見込まれる中、本町へ足を運んでいただけるような体験型の返礼品の開発などに取り組むとともに、越前がにや越前焼など本町のブランド品を積極的に発信、PRすることで、これまで以上に寄附をしていただけるよう努めてまいります。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 米沢康彦君。

○9番（米沢康彦君） ただいま町長の熱い思いと意気込みを聞かせていただきました。何とぞ今後はこちらを実践していただくようよろしくお願いを申し上げます。

1 問目の質問に対してはこれで終わります。

2 番目の質問をいたします。

次に、地域交流施設の建設についてお伺いします。

この写真は今度建つ地域交流施設の議会に示されたデッサンといたしますか、未来予想図です。4枚、我々は頂きました。ここに2枚大きくしまして、出させていただきました。

初め、本当に私見たときに、すばらしい施設が建つんだな。これは外見が空ですけども、ひょっとしてビルが建っていたら銀座の高級ブティックの1店舗かなと思わせるようなすばらしい施設です。この施設が今度、予算に上げられて建つ施設です。なかなか町民の方はこの施設を見ていないと思うんですね。

そういうことを考えますと、この施設は今後の町民のために建てるという。今年の当初予算に上げられた中では、町民のために一番知っていただきたい予算でないかと僕は思っております。

そしてもう一つは、議員の皆様各位に、今日、お越しの皆様に分けましたけれども、町の施設延べ床3割減というタイトルで、1年半前に町が公共施設に対してこうありたい、こうしたいという町長の苦渋の選択をした思いが新聞に掲載されました。読ませていただきます。

町施設延べ床3割減。越前町方針、今後40年で越前町は町公共施設等総合管理計画を改定し、町内178施設を再編して、2061年度までに延べ床面積を3割縮減する方向性を打ち出した。施設の約半数が築30年を過ぎている中、今後の耐用年数や利用状況、機能に応じて最適化を図ることで、建て替えや改修費の不足分を補っていきたい考え等々、あとは読んでください。そういうことで施設に関しての方針を出しました。

それを踏まえて、今回、この施設建造に当たり、町長のご所見をお伺いします。まず、1点目にこの施設の敷地面積、建造物の構造、延べ床面積、建設用の財源についてお伺いします。

○議長（佐々木一郎君） 総務理事。

○総務理事（菅原辰彦君） それでは、お答えいたします。

現在、建設を予定しています地域交流施設は、敷地面積は約1,400平米、構造は鉄骨造り2階建て、延べ床面積は1,169平米です。

全体事業費は7億5,883万2,000円で、内訳としましては調査設計管理

に係る委託料3,286万8,000円、建築及び外構に係る工事請負費6億9,809万7,000円、机や椅子などの備品購入費が2,786万7,000円です。財源につきましては合併特例債3億9,340万円、国庫補助金3億2,882万6,000円、一般財源3,660万6,000円です。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 米沢康彦君。

○9番（米沢康彦君） ただいま理事のほうから工事費の明細を聞かせていただきました。財源についてもお聞かせいただきました。ただ、この施設が7億円以上の建設費を要するという事です。

簡単に建設費を延べ床面積で割りますと、平米当たり54万円、坪単価にしますと178万円になります、この施設は。それを踏まえて、建物の中に入る団体と施設のランニングコストの見込みについてお伺いします。

○議長（佐々木一郎君） 総務理事。

○総務理事（菅原辰彦君） まず、建物1階には、新たに朝日コミュニティ運営委員会事務局が入り、2階には旧越前町勤労青少年ホームに入っておりました町商工会朝日支所及び西田中区が入る予定です。なお、朝日コミュニティ運営委員会事務局を除く団体には、相応の負担をお願いしています。

ランニングコストにつきましては、光熱水費や施設の管理費など、年間約1,000万円を見込んでおります。なお、宮崎地区、越前地区、織田地区のコミュニティセンターより建物をコンパクトにしたことから、これら3施設と比べてランニングコストは低くなる見込みでございます。

○議長（佐々木一郎君） 米沢康彦君。

○9番（米沢康彦君） 先ほど高田議員も発言していましたが、ランニングコストについてはいろんな想定の方もあり、考え方があると思います。ただ、この施設を7億円で建てて、それは起債なり合併特例債、いろんな形で援助を受けて建てます。

しかし、その後の維持管理費は全て町民の負担であります。それを考えますと、これから私たち、そして子どもたち、未来の住民の方に負担をしていただくという考えだと思います。建築後、この施設が将来の越前町に住んでいただく皆様にも大きな負担が生じることでございます。

ここで、最後に町長にお伺いします。この施設が将来、越前町に住んでいただく子どもたち、また将来の住民たちにとってすばらしい建物であるかお考えがあるならお聞かせください。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、お答えいたします。

建設予定の地域交流施設は朝日地区のコミュニティ活動拠点、また、地域や商工業者の交流を促進し、地域活性化を図ることを目的とした施設です。

令和5年3月定例会の小松議員の一般質問でも答弁させていただきましたが、当該施設は地域コミュニティの活動拠点や商工業拠点など、多機能に活用する施設として整備するとともに、生涯学習センターで定期利用が確保できない団体に対しましても活動の場を提供できるなど、朝日地区だけでなく、宮崎、越前、織田の地区の皆様にも利用できる施設になると考えております。

また、様々な世代が交流し、地域のにぎわい創出と活力向上を図る場として、商工会をはじめとした中小事業者のビジネス交流、情報交換の場として幅広い利用など、町内の経済活性化につながることを期待しております。

町には様々な公共施設、社会資本施設がありますが、例外なく町民の皆さんのご負担をいただいているところでございます。財政状況が厳しい中ではございますが、コミュニティセンター機能を持つ地域交流施設の整備は地域住民の長年におわたる念願であり、10年先、20年先の高齢化や人口減少社会を見据えたとき、現在の区単位での集会施設の維持管理は困難になると思われ、新しい時代のまちづくり拠点として地域の核となる施設になるものと確信しておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 米沢康彦君。

○9番（米沢康彦君） ただいま町長のお考えをお伺いしました。

私はこの施設を建設することに当たり、現存する町民、また将来の町民にとって大変有意義な施設と考えずらく、私個人としては大変残念に思います。そして、この施設の建設に当たり、町長、また副町長、教育長、いろんな方々がいろんな地域の方々と懇親を深め、要望をお聞きになり、いろんな会議を進められたと思います。町長就任以来、これは前政権からの約束やったかもしれません。

そういうことも踏まえて、その中で町長がこういう声明を出して、町民の皆さんに財政が苦しいということで、少しでも減らしていくんだと40年の長い間に計画を立てています。その中の大勢の権者の方、いろんな方の意見を聞いたと思いますし、計画を立てたと思いますけれども、その中でこの施設をやめまじょうと、そういう意見があつてしかるべきだったのかなど。私は、個人的な考えです。

ここには4年前建てた庁舎もあります。多目的ホールのカメリアホールもあります。朝寿殿もあります。そういう施設を利用して、ここに入る3つの団体の方から、これをやめて、越前町の先駆けとなつて、この町長の思いに応えるべく、そういう考えがあるんだという声が私たちに聞こえなかったことが大変残念に思います。

これで終わります。

（午後2時26分終了）